

みやぎの 林業だより



表紙写真

令和元年8月9日に「林道二口線」開通式が開催されました。山寺までの全線が舗装され災害に強く快適な林道に生まれ変わりました。<関連記事P11>

【話 題】◎甦れ！青の松原！宮城県緑化運動70周年記念

	「荒浜潮除須賀松の森」植樹式を開催……………	2
	◎防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策の取組……………	3
	◎企業等による森づくりパネル展の開催……………	4
	◎ニホンジカ被害対策ロードマップを作成……………	4
	◎大崎市とNPOの連携による植樹イベントが開催されました……………	5
	◎木質バイオマスを活用した入浴施設 「Wood & Spa や・すまっしゅ」が七ヶ宿町にオープン……………	5
	◎新たな制度「森林経営管理制度」がスタート……………	6
	◎市町村森林経営管理サポートセンターを開設しました……………	7
	◎地域林政アドバイザー研修を開催しました……………	7
	◎第44回「仙台トヨペットふれあいグリーンキャンペーン」 緑化木贈呈式……………	8
	◎宮城みどりの基金への寄付贈呈式(株式会社村井林業)……………	8
	◎林業技術総合センターの研究成果公開行事のご案内……………	9
	◎林業技術総合センターの新規研究課題について……………	10
	◎山仕事ガイダンスinみやぎジョブカフェの開催……………	10
	◎地元の山で森林学習……………	11
	◎林道二口線の開通について……………	11
	◎県内産原木利用再開に向けた試験栽培への取組……………	12
	◎「乾しいたけの日」関連イベントの開催……………	12
【市 況】◎木材市況の動向・特産市況の動向……………		13

目

次

令和元年8月28日
発行

218号

※みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら↓

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/ringyo-dayori.html>



甦れ！青の松原！

宮城県緑化運動七十周年記念

「荒浜潮除須賀松の森」

植樹式を開催

令和元年の幕開けとともに、去る五月二十五日(土)に仙台市若林区荒浜北官林地内で、宮城県と公益社団法人宮城県緑化推進委員会の共催により、一荒浜潮除須賀松の森」植樹式が、開催されました。

今回の植樹式は、宮城県緑化運動七十周年記念として全国か



森理事長開会挨拶

ら寄せられた「緑の募金」を活用し、東日本大震災による津波で壊滅的な被害を受けた海岸防災林の再生に向けた植樹活動を、県民協働により行うものです。

当日は、素晴らしい青空に恵まれ、この時期にしては気温が上昇しましたが、公募により参加した一般県民のほか、企業や団体、そして関係スタッフを含めて百二十名が、強い日差しと暑さにも負けずに、一生懸命に植樹を行いました。

公益社団法人宮城県緑化推進委員会の森琢男理事長の開会挨拶に続き、開催地の仙台市を代表して高橋新悦副市長から祝辞



仙台市高橋副市長祝辞

をいただきました。

そして、森理事長、高橋副市長、米田雅人東北森林管理局仙台森林管理署長の三名によりヤマザクラを記念植樹しました。

これは、宮城県緑化運動七十周年、天皇陛下御在位三十周年、皇太子殿下御即位を祝したもので、海岸防災林とともに、この地にしっかりと根を下ろし、美しい花を咲かせて、被災地に明るい未来が届くことを願ったものです。

宮城県職員から植樹方法の説明を受けた後、記念看板の前



代表者記念植樹



強烈な日差しと暑さにも負けずに！

参加者全員が三班に分かれて〇・二七〇に抵抗性クロマツ苗一三四三本を植樹しました。

また、特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会が設置した様々なネイチャークラフトコーナーでは、大人も子どもたちと一緒に楽しむことができました。

その後、再び式典会場テント前に集合し、閉会式では、来年秋に石巻市で開催される全国豊かな海づくり大会について、大会事務局からPRがあり、最後に共催者の宮城県を代表して森林整備課の青沼技術補佐が閉会



大人も子どもも楽しく



親子力を合わせて！



(公益社団法人
宮城県緑化推進委員会)

※「潮除須賀松」藩政時代に潮風や飛砂による被害を防ぐために海浜砂洲地で植えられたマツの総称です。

挨拶、式の一切が無事終了しました。



緊急対策計画区域「大崎市尾ヶ沢地区」

本県の治山関係では、特に危険性が高い山地災害危険地区を対象に、山腹斜面や溪流の荒廃

平成三十年に発生した七月豪雨や台風二十一号、北海道胆振東部地震等の自然災害により、国民生活に多大な影響が発生したことを受け、十一府省庁において実施した「重要インフラの緊急点検」の結果等を踏まえた、「防災・減災、国土強靱化のための三か年緊急対策」が平成三十年十二月に閣議決定されました。

**防災・減災、
国土強靱化のための
三か年緊急対策の取組**



平成30年大雨により発生した山腹崩壊により土砂が国道まで流出した「大崎市柳木地区」

(森林整備課)

状況をはじめ、既存施設と周辺森林の状況を緊急点検するとともに、海岸防災林についても調査を実施しました。

八十二地区を対象として点検した結果、対策が必要な山地災害危険地区二十三箇所、機能が低下した海岸防災林一箇所が判明し、このうち、三か年緊急対策としては十六箇所を計画しており、令和元年度は写真の尾ヶ沢地区をはじめ十二箇所対策工事を実施します。

これらの取組を通じて、災害に強く安全で安心な県土づくりに取り組んでいきます。

企業等による森づくり パネル展の開催

森林は、木材などの林産物の供給のみならず、清らかな水や豊かな実りをもたらす大地と海を育み、さらには山地災害や地球温暖化の防止に加え、生物多様性保全などの大切な役割を果たすなど、私たちの暮らしを支える共通の財産です。

近年、CSR活動（企業の社会貢献活動）の一環として、森林整備活動に取り組む企業や団体が増えていることから、県では、企業等による森づくり活動を推進するため、「みやぎの里山林協働再生支援事業」、「わたしたちの森づくり事業」及び「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」を展開し、その活動を支援しています。

平成十八年度からスタートした企業等による森づくり活動の実績は、延べ一〇〇〇件に迫り、活動面積も四三〇・八三㍊になるなど、大きな広がりを見せています。従業員とご家族、さらには、お客様とのふれあいの場に加え、地域との交流の機会にもなるなど、地域活性化にも貢

献しています。

健全な森を次世代に継承するため、企業等による森づくりの輪がますます広がるよう、それぞれの企業等が創意工夫を凝らした森づくりの様子を紹介するパネル展を開催しました。

【開催場所】

県庁二階回廊壁面（東西）

【開催期間】

五月二十日（月）～二十四日（金）

引き続き、参画する企業・団体等を募集するとともに、参加団体等の活動支援を続けていきます。



森づくりパネル展（県庁二階回廊壁面）

（自然保護課・森林整備課）

ニホンジカ被害対策 ロードマップを作成

東部地域（石巻市・女川町）では、ニホンジカによる農林業被害や交通事故等が増加しており、住民生活への影響が深刻化しています。効果的な被害対策には、関係者の連携強化や総合的な取組が重要であることから、当所農業振興部と連携し、令和十年度を目標年度とするロードマップを作成しました。

ロードマップでは、①住民理解・情報共有・連携の促進、②生息状況の把握と被害対策の実施、③狩猟強化のための整備、④鳥獣対策の人材育成、⑤食肉流通対策の推進を取組の方向性とし、具体的対策として、被害対策マニュアルの作成や研修会・ワークショップの実施、ニホンジカの移動を抑制するための広域防鹿柵設置、森林整備に伴う作業道の整備、農地近隣でのわな等による捕獲強化、集落リーダーの育成や新規狩猟者の確保、ジビエの普及推進等の取組を推進し、令和十年度までに農林業被害や自然植生に影響が出ない程度にまで低減すること

を目標としています。

取組の推進に当たっては、農業関係の鳥獣被害防止対策交付金事業、林業関係の森林育成事業、林業・木材産業成長産業化促進対策事業など、分野を超えた様々な事業や財源を組み合わせ、連動させることで総合的・効果的に対策を進めていく予定です。

また、地域を十八のブロックに分け、生息数や捕獲情報等を毎年細かく分析し、効果を検証しながら、次の対策へフィードバックしていくこととしています。

このロードマップが関係者の行動（アクション）を促し、被害を低減できるよう取り組んでいきます。



人家に出没したニホンジカ

（東部地方振興事務所）

…大崎市とNPOの連携による
植樹イベントが開催されました…

大崎市主催の「市民の森づくり」と認定NPO法人環境リレーショーンズ研究所主催の「Present Tree in みやぎ大崎」との合同植樹イベントが、六月十六日(日)に大崎市鳴子温泉鬼首において開催されました。

「市民の森づくり」は今年で九年目、「Present Tree in みやぎ大崎」は設立から六年目を迎え、大崎市民に加えて、東京都民も参加しており、総勢一六二名の盛大な植樹イベントとなりました。



植栽の様子



集合写真

開会式では、大崎森林組合から、苗木の紹介や植樹作業方法等の説明があり、その後、五班に分かれて植樹作業を行いました。

参加者の大半は、植樹作業が初めてで、不慣れた作業に苦労していました。県職員や森林組合員等の指導により、後半はスムーズに植樹作業を行うことができました。今回は、〇・四畝の森林に、オオヤマザクラ、イタヤカエデ、ミズナラ等の広葉樹五種を計千本植栽しました。日頃、森林に関わる機会が少ない参加者に、森林の持つ機能や大切さを理解してもらうことが出来ました。

(北部地方振興事務所)

木質バイオマスを活用した入浴施設
「Wood&Spa や・すまっしえ」
が七ヶ宿町にオープン

七ヶ宿町では、移住促進と定住拡大を目指すとともに、生活の利便性の向上と地域の賑わいの創出に向けて、平成二十六年から拠点施設「なないろひろば」の整備を行ってきました。

平成二十九年四月に「ファミリーマート+coop 七ヶ宿店」がオープンしたのを皮切りに、平成三十年四月には「多目的交流棟 Book&Cafe こ・らっしえ」が、平成三十一年一月には、「便利屋商店+セルフ七ヶ宿s」が営業を開始し、地域の交流拠点が形成されてきました。

この度、計画の最後を飾る、木質バイオマスボイラーを熱源とした入浴施設「Wood&Spa や・すまっしえ」が平成三十一年四月二十五日にオープンし、「なないろひろば」全体の整備が完了しました。

入浴施設は木造平屋建てで延べ床面積約三九〇平方メートルとなっており、普通浴槽と血行促進や疲労回復の効果があるといわれている炭酸泉浴槽、サウナ室、

水風呂などを完備しています。また、子どもたちが木と触れ合うことができるウッドボールプールも併設されており、木育の効果も期待されています。今後は、指定管理者である「七ヶ宿まちづくり株式会社」が主体となって、町の活性化に努めていく予定です。



浴室内部



ウッドボールプール

(大河原地方振興事務所)

新たな制度 「森林経営管理制度」 がスタート

平成三十一年四月に、森林経営管理法が施行されました。同法では、これまで適切な森林管理が行われていない森林について、市町村が主体となって森林所有者と林業事業者を繋ぐ新たな仕組を定めています。

具体的には、経営や管理が行われていない森林のうち、所有者から委託の申し出等があった森林については、

- ① 林業経営に適した森林は、市町村が経営管理権を集約した上で民間事業者に再委託する。
- ② 自然的条件に照らして林業経営に適さない森林は、平成三十一年度から譲与を開始される森林環境譲与税を活用しながら、市町村が自ら管理を行うこととなります。

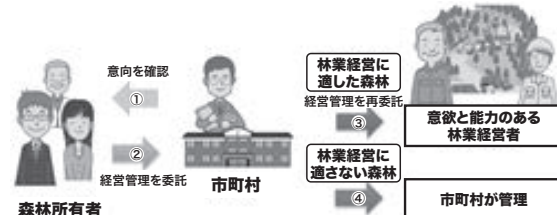
これまで既存の施策では対応が困難であった、森林所有者等による自発的な森林整備が進むことが期待され、地球温暖化防止や土砂災害防止などの森林の公益的機能の維持増進に寄与す

適切に経営管理されていない森林について、

- ① 市町村が森林所有者に、今後、所有森林をどのように経営管理したいか意向を確認します。
- ② 森林所有者が市町村に委託したい場合、市町村と協議の上、経営管理の委託手続きを行います。

市町村に森林の経営管理を委託した場合、

- ③ 林業経営に適した森林は、意欲と能力のある林業経営者に経営管理を再委託します。
- ④ 林業経営に適さない森林は、市町村が森林を管理します。



るとともに、木材の有効活用を通じて林業の持続的発展が期待されます。森林を所有している方は、まずは所管の市町村へお尋ねください。

【参考】森林経営管理法の概要

- (1) **森林所有者の責務の明確化**
森林所有者は、その権原に属する森林について、適時に伐採、造林又は保育を実施することにより、自然的経済的社会的条件に応じて適切な経営又は管理を持続的に行わなければならない。
- (2) **森林経営管理の仕組み**
市町村は、経営管理権集積計画を作成することにより、森林所有者の委託を受けて立木の伐採及び木材の販売、造林並びに保育等を行うための権利(経営管理権)を、森林所有者から取得できるよう措置。
経営管理権を取得した森林のうち、自然的条件に照らして林業経営に適さないもの等について市町村が自ら経営管理(市町村森林経営管理事業)できるような措置。
- (3) **所有者不明森林に係る措置**
森林所有者の全部又は一部が不明のものについて、一定の手続きにより市町村に経営管理権を設定することを可能とする措置を講ずる。

(林業振興課)

市町村森林経営管理 サポートセンターを 開設しました

森林経営管理制度の円滑な運用を図るため、平成三十一年四月、(一社)宮城県林業公社内に新たに市町村の相談対応や技術指導を担う「宮城県市町村森林経営管理サポートセンター」が設置されました。

市町村からの各種相談への対応や、技術的観点から見た森林整備のノウハウ等に関する指導及び助言を行い、市町村を支援していきます。

【相談対応・技術支援】

- ① 経営管理意向調査
- ② 経営管理権集積計画の作成
- ③ 市町村森林経営管理事業
- ④ 経営管理実施権配分計画の作成
- ⑤ 森林経営計画策定
- ⑥ 森林経営管理業務
- ⑦ 森林情報収集
- ⑧ 森林施業履歴の整理
- ⑨ 森林所有者等への事前説明
- ⑩ 現地調査(森林作業道・森林)
- ⑪ 森林施業提案に伴う森林施業実施の合意形成

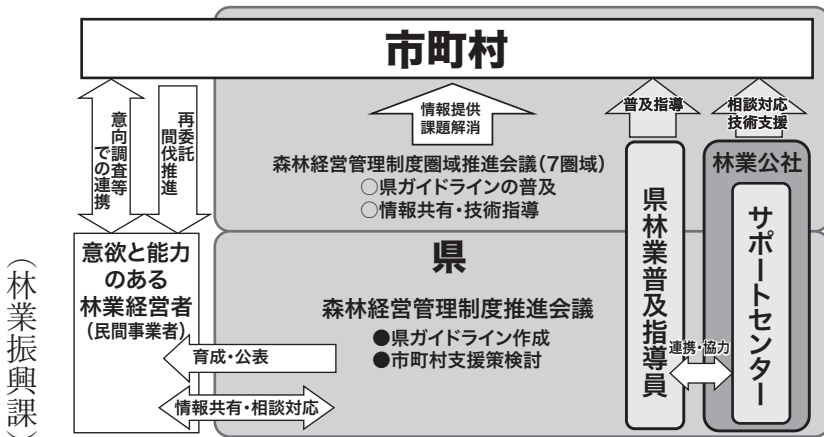
【研修会の開催】

(基礎研修)

- ① 県内の森林・林業の現状
- ② 森林経営管理制度
- ③ 境界の確認・森林整備の方法等

(実務研修)

- ① 森林調査と評価手法
- ② 森林整備の設計・積算
- ③ 各種計画の作成手法等



(林業振興課)

地域林政アドバイザー 研修を開催しました

市町村森林整備計画制度の拡充や市町村の森林・林業行政を支援する「地域林政アドバイザー」を育成し、地域林政支援活動を促進するために、六月六日から六月七日に地域林政アドバイザー研修を開催しました。当日は、市町村の林務職員のほか林業事業者、森林組合等二十八名の参加がありました。



研修内容は、多岐にわたり、以下の分野の研修が行なわれました。

- ① 市町村森林整備計画
- ② 造林届出制度
- ③ 林地開発許可制度
- ④ 保安林制度
- ⑤ 森林経営管理制度全般
- ⑥ 森林GISの活用
- ⑦ 森林の土地の所有者届出制度
- ⑧ 林地台帳の整備・運用

参加者は皆、新たな制度に対応すべく、講師の話に熱心に耳を傾けていました。

(林業振興課)

**第四十四回「仙台トヨペット
ふわあいグリーンキャンペーン」
緑化木贈呈式**

緑豊かな街づくりをめざした社会貢献活動として昭和五十一年から毎年実施されている「ふわあいグリーンキャンペーン」の一環として、仙台トヨペット株式会社から宮城県へ緑化木が贈呈されました。

贈呈式では、「緑の大使」である二〇一九ミス・インターナショナル日本代表の岡田朋峰さんから村井知事へアオダモの苗木が手渡されました。
同社のキャンペーンでは、これまで、ソメイヨシノ、ハナミ



緑の大使から知事への緑化木の贈呈



昨年度バットの森植樹祭での植樹の様子

ズキなど六、五二〇本の緑化木の寄贈を受けています。
平成十七年度からは、東北楽天ゴールデンイーグルス誕生を契機に、バットの材料となるアオダモを中心に寄贈を受けており、県では、地域住民、地元のスポーツ少年団等と楽天球団とともに、野球文化とみどりの文化の発展を願い、アオダモを主体とした広葉樹の森づくりを行ってきました。
今回寄贈されたアオダモの苗木は、今年度、気仙沼管内で開催予定の「みやぎバットの森植樹祭」で、地域の方々とともに植樹される予定です。

(自然保護課)

**宮城みどりの基金への
寄付贈呈式**

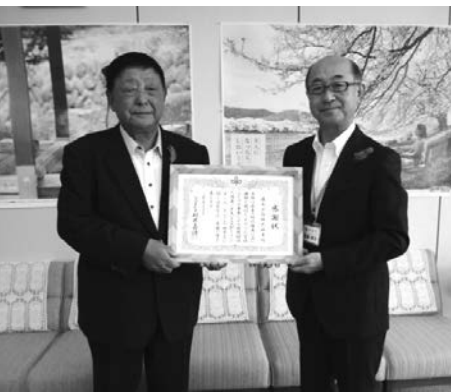
株式会社村井林業

平成二十八年から四年続けて宮城みどりの基金へ多大な寄付をいただいている株式会社村井林業に対し、遠藤副知事より感謝状を贈呈しました。

贈呈式で村井八郎会長は、「普段は木を使う立場なので、寄付により県内に緑が増えることは嬉しい」と述べられました。

また、遠藤副知事からは、「長年の寄付に感謝申し上げますとともに、有り難く県内の緑化活動に活用させていただきたい」と謝辞を述べました。

宮城みどりの基金は、みどり



宮城みどりの基金への感謝状の贈呈



百万本植樹事業の様子

豊かな県土をつくることを目指し、平成五年に創設されました。この基金を活用した事業の一つに、「百万本植樹事業」があります。この事業は自ら植栽活動を行っている地域団体等に対し、県が苗木を配布し、植樹していただくもので、これまで約一九万六千本の苗木が植樹されております。
県では、宮城みどりの基金への寄付を随時、募集しております。県内の金融機関に募金箱を設置しているほか、申込書による寄付も受け付けています。
県内のみどりを増やす取組に是非、御協力ください。

(自然保護課)

**林業技術総合センターの
研究成果公開行事のご案内**

林業技術総合センターでは、「県民に開かれた身近なセンター」を目指し、県民や林業関係者に向けて、研究成果を公開するイベント等を開催するほか、他機関等が主催する場に積極的に参加しています。本年度の主な成果公開行事について紹介します。

◆研究成果発表会

調査研究や技術開発の成果のほか、林業普及指導員による技術の普及や経営改善への取組などの活動成果について、広く森林・林業木材産業関係者に情報を発信するとともに、現場での利活用を通じて産業振興を支援するために開催しています。開催時期は十一月下旬を予定しています。

◆県林業技術総合センター一般公開

林業技術総合センターを公開します。広く県民の皆様を対象に各研究分野ごとに実験棟や施設にお



平成30年度一般公開にて

いてブースを設け、直接見て触れて学んでいただけるような展示を企画しています。生産物の販売も毎回、好評をいただいております。多くの方々のご来場をお待ちしています。開催は令和元年十月五日(土)を予定しています。

◆今後のイベントのお知らせ

**◆学都「仙台・宮城」サイエンス
デイ2019**

特定非営利法人 *science* 主催のイベントで、「知的好奇心のもたらす心豊かな社会の創造」に向けて、大学や

研究機関、企業などがおよそ一〇〇のプログラムを設けて夏休み目前の子供たちや科学好きの大人たちに科学を体験していただくとうするものです。

本年度は七月十四日(日)に東北大学川内キャンパス他で開催されました。

当センターも「森の研究室」のぞいてみよう」をテーマに、体験ブースを出展しました。昨年度はこのイベントで、「サイエンスデイAWARD」のひとつである愛巣社(AIST)賞を受賞しました。

◆みやぎまるごとフェスティバル

令和元年十月十九・二十日に開催されるフェスティバルに当センターも出展します。様々な研究成果の中から、最新の興味深いテーマをピックアップし、分かりやすく面白く発表しますので、どうぞ足をお運びください。

◆環境マルシェ

尚絅学院大学環境構想学科主催の「環境マルシェ」が去る六月二十三日(日)にサンモール一番町商店街にて開催され、当センターも出展しました。このマル

シェは県内外の様々な団体が行っている環境活動を一般市民に体感していただくというイベントで、今回で四回目となりました。

今年度はSDGsをテーマに、十四の団体が出展しました。当センターからは森林の持続的利用の観点から森林病虫害獣に関する研究成果等について発表しました。

当日は、日曜日ということであ、たくさんのお客で賑わっており、松くい虫被害関係の展示では、生きたマツノザイセンチュウの顕微鏡観察に多くの方が興味を示し、生物の巧みな戦略に驚いていました。



環境マルシェのひとつ

林業技術総合センターの 新規研究課題について

令和元年度の新規研究課題についてご紹介いたします。

●高年齢級人工林の材質に関する研究

主伐されないまま五十年生を越えるような高年齢級林分が多くなっています。これらの高年齢級人工林の材質については、知見が少なかつたことから、本研究により強度等の特性を把握し、利用の促進につなげていきます。

●宮城県産きのこの新品種開発ーハタケシメジ野外栽培品種ー

当センターでは、これまで、ハタケシメジの空調施設栽培品種を開発し、普及を進めてきました。が、生産現場からは野外でも栽培したいという声を多くいただいています。

そこで、保有する野生菌株三十種などから人工交配と選抜により、野外栽培に適する品種を新たに開発し、本県のオリジナルきのことして振興を図っていきます。

●カラマツの挿し木苗生産技術の開発とスギ挿し木コンテナ苗の現地適応性の検証

カラマツは、近年、加工技術の進展や合板等としての用途が拡大したことで、再造林樹種として需要が高まっています。しかし、種子の稔りに豊凶差が大きく、着花促進技術も確立していないため、安定的な種子生産ができていません。

そこで、当センターではカラマツ挿し木苗の生産技術を開発し、種苗供給量の安定化に貢献していきます。

スギでは、花粉症対策品種の挿し穂をマルチキャビティコンテナで育苗する技術を確立し、今後、需要が高まっている花粉症対策品種の生産拡大につなげていきます。



カラマツの挿し木苗

(林業技術総合センター)

山仕事ガイダンスin みやぎジョブカフェの開催

今年度最初の「山仕事ガイダンスinみやぎジョブカフェ」を令和元年六月二十九日(土)に宮城若年者就職支援センター(みやぎジョブカフェ)で公益財団法人みやぎ林業活性化基金の共催で開催しました。

このガイダンスは、林業就業希望者に対し、林業の仕事について知っていたり、林業体験イベントとして昨年度から、仙台駅隣のみやぎジョブカフェ(宮城若年者就職支援センター)でも開催しています。

みやぎジョブカフェでのガイダンスは、四十五歳未満の若年者を対象としており、少人数制でゆったりとした雰囲気、林業の仕事や就職について説明し、相談を受けています。今回は、出席者八名、平均年齢が二十八歳と比較的若い世代の方々の参加となりました。ガイダンスの前半は、公益財団法人みやぎ林業活性化基金から、林業への就業についての説明、後半は株式会社佐久の佐藤専務をお招きして、会社の取組についてお話し

いただきました。参加者は熱心に話を聞きながら、林業への就職について相談していました。また、アンケート調査の結果、参加者のうち七名が林業でのインターン参加を希望しました。今後、公益財団法人みやぎ林業活性化基金と連携して、インターン希望者の受入について調整する予定です。

昨年度は参加者八名のうち、二名が林業事業体に就職しています。少人数で濃密な担い手確保の取組として今後も継続することとしており、今年度は九月頃に第二回目の開催を予定しています。



株式会社佐久の佐藤専務の説明を熱心に聞く参加者

(林業振興課)

地元のこども森林学習

令和元年七月四日に栗原市立花山小学校五・六年生十一人が地域の主産業である「林業」の現地学習に取り組みました。

このカリキュラムは、総合学習の一環として、当校協働教育推進委員会の高田豊コーディネーターが中心となり、岩手・宮城内陸地震復旧時から、約十年の間続けられているもので、地元山林での植樹や川下の合板工場見学など、自然豊かな「花山」と「森林・林業」の絆を実体験する内容となっています。

当日は、「道の駅路田里はなやま」近くの山林に彩りを添えようと樹種選定した八重桜と花桃の苗十数本を植栽しました。児童たちは、初めての唐鍬づかいに悪戦苦闘しましたが、作業のあとには、「今後は植えた苗のように、いろいろな経験を重ねて花山で暮らしていきたい。」という故郷愛あふれる感想もありました。

続いて、小田ダム近くの林業現場（間伐）の見学では、栗駒高原森林組合長や職員から、林業

の大切さについて聴講したほか、伐出機械の試乗を体験しました。児童からは間伐などへの質問があり、普段、なにげなく目にする森林について、実生活との関わりや新たな気づきを得た様子でした。

次回は、製材工場の見学等を行い、年度末には学習成果が発表される予定です。



(北部地方振興事務所)

栗原地域事務所

林道二口線の開通について

林道二口線は、昭和四十八年に開設された仙台市秋保地区と山形市山寺地区を結ぶ全長約十九キロメートルの林道です。

県では、地方創生道整備推進交付金により、平成二十八年から改良工事を行っておりましたが、事業費約三億三千万円の工事が完了したことにより、八月九日に開通を迎えました。

これまでは、宮城県側の約半分の区間が砂利道だったことや、度重なる災害により、一部区間を除いて、秋期の短期間に限定して通行規制の解除を行ってきたところですが、今般未舗装区間の整備を行い、全線での舗装が実現したことから、災害に強く快適な林道に生まれ変わりました。

この林道は、二千五百ヘクタール以上の広大な森林の利用区域を抱えています。また、古くは仙台と山形を結ぶ街道として仙台藩が番所を置くなど、歴史的にも宮城県・山形県の経済文化交流に重要な役割を果たしてきました。

また、二口溪谷沿いにルート

が設けられており、国指定名勝「磐司」や国指定天然記念物「姉滝」などの見所が豊富で、観光資源を活かした一層の利用促進が期待されています。



国指定名勝「磐司」



展望台から(仙台方向)

林道二口線は急峻で急なカーブが多いことから走行には細心の注意が必要です。対向車とのすれ違いは、路肩から外れないよう十分注意し、退避所や道幅の広いところで行ってください。また、夜間や、マイクローバス以上の大型車は通行できません。これから秋の行楽シーズンを迎え、交通量が増えることが予測されています。皆様には、安全第一に交通マナーを守り、笑顔で利用できますようお願いいたします。

(林業振興課)

県内産原木利用再開に向けた 試験栽培への取組

平成二十九年度に県で実施した原木林汚染状況調査の結果から、仙台管内の原木林で基準値を下回る箇所が確認されたため、管内四市町村の原木シイタケ生産者と協力し、安全な県内産原木の確保に向けた「仙台地域原木シイタケ試験栽培プロジェクトチーム」を本年三月に設置しました。

試験栽培は、県の放射性物質対策作業マニュアルに基づき、先の調査結果を基に原木の採取地を選定し、一ロット当たり



生産者巡回指導の様子



原木調達の様子

五十本を基準に行いました。原木は使用前検査を実施し、基準値以下のものを使用しました。

協力いただいている生産者全員は、既に植菌作業まで終了しており、早い方では今年九月にシイタケが採取出来ることから、改めて、ほだ木とシイタケの検査を行う予定です。

他県産原木の価格が上昇傾向である中、県内産原木の利用再開が重要となっており、当事務所では、今後も定期的に管理状況の確認や情報共有を行い、県内産原木の利用再開に向けた支援に取り組んでいきます。

(仙台地方振興事務所)

「乾しいたけの日」 関連イベントの開催

七月七日の「乾しいたけの日」を記念して、県産きのこをPRするイベントを開催しました。

① 県産きのこ販売会の開催

六月二十四日、二十七日、二十八日の三日間、県一階玄関ホールにおいて、「みやぎ県産きのこ販売会」を開催しました。生産者六団体が日替わりで出展し、乾しいたけのほか、生しいたけ、生きくらげやその加工品等が販売され、完売する商品も多く大変盛況となりました。

次回の販売会は、十月に開催する予定です。日程等の詳細は決定次第、県林業振興課ホームページやラジオ放送等でお知らせしますので、ご確認の上、ぜひご来場ください。



県産きのこの販売会

② きのこ料理教室の開催

七月三日に、宮城県特用林産振興会と仙台市ガス局の共催により、乾しいたけをはじめとした県産きのこを使った料理教室を開催しました。

当日は、抽選で選ばれた二十名が参加し、乾しいたけとこの戻し汁を使った「梅ときのこの和風スープスパ」や、珍しい生きくらげを使った「チーズクリームとフルーツのマリネ」など簡単に美味しい料理作りを楽しみました。

次回のきのこ料理教室は十月に開催する予定です。県産きのこの新たな使い方・魅力を発見できる料理教室となっておりますので、ご興味のある方は、仙台市ガス局または、県ホームページから開催日程を確認いただき、申し込みください。



きのこ料理教室の様子

(林業振興課)

木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(平成31年5月)

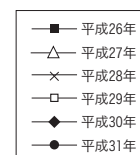
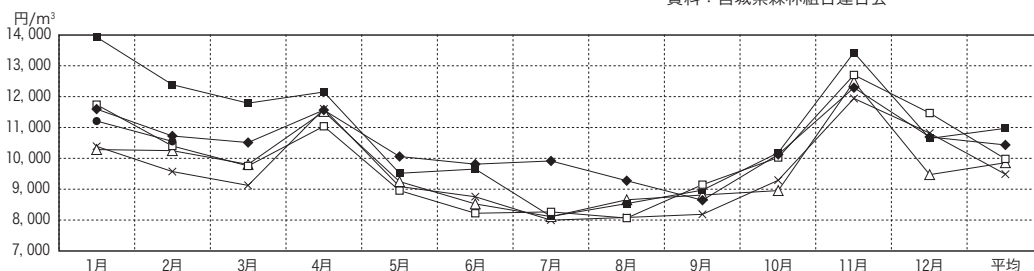
樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)					
			仙南	仙北	東和	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14~16	—	—	10,080	—	—	—
		16~30	—	—	—	—	—	—
		20~30	11,520	—	—	10,800	10,800	—
	4.00	10~13直曲	10,080	10,800	10,800	10,080	10,080	—
		14~18	10,800	10,080	10,080	10,080	10,080	—
		20~28	—	11,160	11,520	—	—	—
		30上	—	12,000	11,520	—	—	—
	3.65 ~4.00	20~28	11,520	—	—	11,880	11,520	—
		30上	11,520	—	—	11,880	11,520	—
1.95	16上	6,120	6,120	6,120	6,120	6,120	—	

資料:宮城県森林組合連合会

概況

素材動向

・素材価格は前年同時期より
下降の傾向にある。



素材:県森連共販所
市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位:円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成26年	1,010	1,001	917	781	851	859	891	912	911	874	981	1,094
平成27年	1,144	1,055	984	916	886	766	852	948	960	970	962	1,038
平成28年	1,037	1,025	972	946	965	955	961	977	1,018	1,014	998	1,054
平成29年	1,034	945	861	862	890	775	863	851	884	980	971	1,034
平成30年	1,160	958	947	795	958	851	836	913	987	968	929	1,009
平成31年	1,064	993	895	932	887	888	901					

資料:仙台中央卸売市場

概況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が
出荷制限指示を受けたこと等に伴い、
価格は大きく下落したが、全国的な
品薄状況を背景に平成26年次から
平成30年次の平均単価は4年連続で、
900円代と、震災前の平均価格を上
回っている。
・なお、平成30年次の県産しいたけの
入荷量は214 t(前年比63 t減)であり、
市場占有率は44%(前年比10ポイント
減)であった。

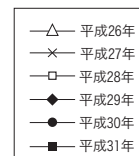
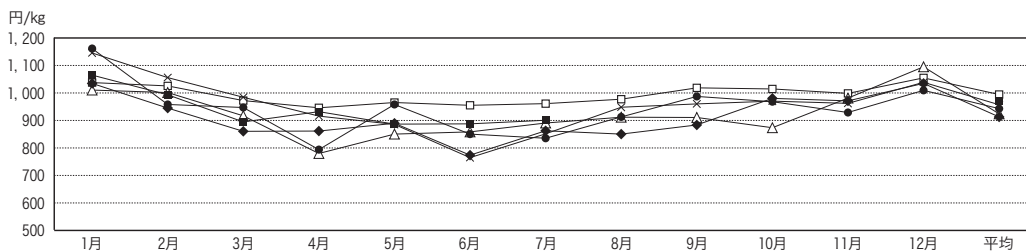


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和元年6月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和元年6月(戸)	1,513	1,046	467	69.1
平成30年6月(戸)	1,863	1,189	674	63.8
前年同月比(%)	81.2	88.0	69.3	—
平成30年7月~令和元年6月(戸)	19,455	13,565	5,890	69.7
平成29年7月~30年6月(戸)	20,638	14,298	6,363	69.2
前年同期比(%)	94.3	95.0	92.6	—


資料:住宅着工統計

概況

新設住宅着工戸数

・6月の新設住宅着工戸数及び木造戸数は
前年を下回っている。木造率は減少した。
・累計比及び木造戸数及び木造率は前年
を下回っている。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社


代表取締役 亀山 武弘

本 社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150


営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山

工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山

関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所



坂元植林合資会社
株式会社サカモト
坂元植林の家



地域との共生
「めぐりめぐみ」をテーマに
私たちは自然を愛し、
大切に育てていきます。

〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 征弘
専務理事 亀山 武弘
理事 小澤 幸三
理事 石田 竜也
監事 阿部 貢夫
監事 一條 英夫

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 奥津 文男
副会長 亀山 征弘
副会長 永井 政雄
副会長 米澤 光秀
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる
奥地水源地域の森林整備

水源林造成事業

宮城県水源林造林協議会

〒980-0011
仙台市青葉区上杉2丁目4-46
宮城県森林組合会館内
TEL (022) 266-7121

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門
事務局 長 佐々木 治樹

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は

信頼の高い筒井鋼機株式会社へ

筒井鋼機株式会社

本 社 仙台市青葉区花京院二丁目2-22 TEL022-224-1261・FAX022-265-9231
盛岡営業所 盛岡市青山四丁目47-32 TEL019-641-7713・FAX019-641-7807

E-mail info@tutuiokoki.co.jp
U R L http://www.tutuiokoki.co.jp

見て触れて 住んでしみじみ 木の住まい 宮城県木材協同組合

理事長 千葉 基

For Woody Life

〒981-0908 宮城県仙台市青葉区東照宮1-8-8
TEL : 022-233-2883 FAX : 022-275-4936
E-mail:miyagi_wood@waltz.ocn.ne.jp

みやぎ材利用センター

みやぎ材利用センター本部 TEL.022-233-2883
(宮城県木材協同組合)


利用センター TEL.022-239-2661
総合窓口

優良みやぎ材、県産材を全てお世話致します。ちょっとした疑問から注文まで全てお任せ。ご要望の工期に併せてご提供致します。

- 建築資材部 (株)仙台木材市場 TEL.022-239-2011
- 土木資材部 宮城県森林組合連合会 TEL.022-345-2205
- 合板資材部 石巻地区森林組合 TEL.0225-93-1711

〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-8-8
TEL : 022-233-2883 FAX : 022-275-4936

森林は大切な資源です
森林整備を通して
美しい森林を未来に伝えます

 一般社団法人 宮城県林業公社
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>

宮城県緑化運動70周年

緑の募金

にご協力ください!

秋の強調月間 9月1日~10月31日

年間目標額 **47,000,000円**

平成31年緑の募金運動スローガン

「緑の募金で進めよう SDGs」~^{もり}森林を守る ^{もり}森林を活かす~

平成31年度 緑化促進事業 各地で実施中!!

- みどり環境促進事業
- ふれあいの森づくり事業
- ふるさとの樹木保存事業
- みんなの森造成事業
- みんなの街づくり事業
- 次代へ繋げる海岸防災林の保育を担うボランティア養成・啓発事業
- 木育活動支援事業
- 海岸防災林再生事業
- 宮城県緑化運動70周年記念緑化事業



詳しくはHP(<http://miyagiryokusui.com>)または下記事務局までお問い合わせください。



公益社団法人宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)等を通じ、森林の公益性発揮を
目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号(JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

森林組合系統の新しいロゴマークです

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南木材センター 0224-65-2166 東和木材センター 0220-45-2240
大衡総合センター 022-345-2205 津山木材センター 0225-68-3038
岩出山木材センター 0229-72-1877

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木, 海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ,
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

林業の^今を伝える月刊誌 平成31年度の購読申込受付中!!



GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,200円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 2,800円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号
編集協力 宮城県農林水産部林業振興課
☎022-222-3011 七五〇一